



「企業等体験研修」より

総合教育センターだより

◇ — も く じ — ◇

- ・ 講座風景より…………… 1
- ・ センターの片隅から…………… 2
- ・ 講座を振り返って…………… 3
- ・ 「情報通信ネットワーク拠点」の整備…………… 4
- ・ 公開講演の「はなし」…………… 5
- ・ 平成9年度第12回秋田県教育研究発表会…………… 6
- ・ 冬のプラネタリウム教室のご案内…………… 6



「象潟の大自然を探る」より

平成9年12月16日発行

秋田県総合教育センター

〒010-0101 南秋田郡天王町天王宇追分西29番地の76

TEL 0188 (73) 7200 (代表)

FAX 0188 (73) 7201

すこやか電話相談 0188 (73) 7206

パソコン通信 0188 (73) 7207 (代表)

学習指導案
レファレンスサービス 0188 (73) 7210 (FAX)

センターの片隅から



次 長 鈴 木 進

はじめに

学校教育の直接の担い手である教師の活動が、子供の成長発達に大きな影響をもたらすものであり、そのため教員研修の重要性は繰り返し指摘されてきた。今日、急激な社会の変化のなかで学校のあり方が問われ、教師の自己変革が求められている。学校の教育活動の充実を図るためには、教員研修は不可欠であり、その意欲を引き出すとともに、教師が「学びを伝えたい研修」の実施が求められています。

研修講座について

当総合教育センターとしても、当面している教育改革の課題及び本県の教育課題等、社会や時代の要請を踏まえた教育の動向に、柔軟かつ弾力的に対応出来る研修内容となるよう、講座内容の質的充実に努めているところであります。全県教職員の強い研修意欲に結びつく講座編成をと来年度も配慮しています。

義務研修で悉皆講座（A講座）と推薦講座（B講座）、教員の意欲的な自主研修を支える希望講座（C講座）とともに、各指導主事の精力的な取り組みと創意・工夫により改善が加えられます。

講座に学校からのニーズが多い製作・制作・実習・実技等や教材開発などの体験を重視した講座内容を増やし、伝達・講義だけでなく、参加者の体験や児童生徒の個に応じた情報交換・協議などの場を多く設定するなどの工夫をした。また、教育課題解決に向けて教員の意識改革を目指す総合講座的な意味合いを持つ、「学校教育改善講座」をC講座に新規開設する。そして、学校における人的なネットワーク条件を向上させるため、全教科に「パソコン活用」に関する講座を設ける。さらに、特別活動研修講座に新たに高校を加え異校種間の交流・連携を深め充実を図る。加えて、全校種教職経験者（10年経過）研修講座を、「企業等体験研修」として一部希望者対象で実施してきたが、これを該当者全員を対象とした「社会貢献活動体験研修」として、実施する。

全県の教職員に魅力ある研修を提供するため、学校のニーズに対応した研修内容とその充実のため、センターの職員は日々研鑽に努めております。県内各学校からの意欲ある受講により激励をいただければと思っています。

センターの芝生で

当総合教育センターでの教育相談は、「障害児教育相談」と「一般教育相談」があり、登校拒否や、学業、進路に関して、小・中・高校生が来ます。そんな時、たまに子供とそのお母さん、お父さんと指導主事や研修員とセンターの芝生でグランド・ゴルフをする機会があります。準備としてはホールポストを8個たてればよいのだが、これを子供に立てさせるとその姿が見えてきます。広いグランドの真中にはまず立てません。ほとんど建物の側、ネットの近く、障害物の周り等々、何かに寄りかかりたい状態？護って欲しい？状況がみられる。そして、ゲームが盛り上がってきてもプレー中に父、母に子供から声を掛ける姿はほとんど無く喜怒哀楽もほとんど見せません。こんな子供の一挙手一投足を観察していると指導の切り口がたくさん見えるのではと先生方に話しております。

ルールは簡単でゲームは短時間のレクリエーションに最適で、ホールポストをにらんでの緊張感！一気にカッ飛ばす爽快感。打ったボールをめざしてタップリ歩く。のびのびプレーができ、協調性と集中力、調整力が養えます。

特効薬のないこの種の問題に、地道に明るくそして、粘り強く、体温の感じられる言葉で対応している先生方を見ていると、必ずこの子たちは応えてくれると信ずることができます。

教育研究発表会への誘い

今年度で第12回を迎える全県の教育界の収穫祭であるセンターの「教育研究発表会」は、平成10年2月12日～13日に開催されます。施設設備の公開はもちろん、4部とも新企画をと考えております。加えて各校のそして個人の日々の実践と課題に向けての研究の成果の発表を期待しています。この会で研究情報の交換を校種を越えて行い、それによってさらに研究への意欲喚起の機会にさせていただきたく、21世紀の教育をうかがえる場面を想定して取り組んでおります。

また、今年の記念講演は本県出身で直木賞作家の西木正明氏から快諾を得ております。教育関係以外からの講師がゆえに新鮮で、示唆に富み内容の濃いものになると、期待するところ大であります。たくさんの皆さんの皆さんの聴講を待っています。

講座を振り返って



教職研修部長 石塚 寛

新聞等では、行政改革、経済構造改革、金融システム改革、社会保障構造改革、財政構造改革に教育改革を含めて、いわゆる「六つの改革」に関することがよく報道されます。そのためか、教育改革はもちろん、改革という言葉がよく使われるような気がします。また、教育改革に向けての動きもさまざまあるように思われます。平成8年7月に第15期中央教育審議会の答申が出され、今年6月には第16期中央教育審議会の答申が出されました。さらに、「六つの改革」に関連して今年1月にまとめられた教育改革プログラムも8月にはその改訂版が出されました。教育課程審議会、保健体育審議会さらに、高校教育の改善充実に関する調査研究協力者会議、特殊教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議等々の活動についても時々報道されております。

「極めるセンター」、「高めるセンター」、「応えるセンター」等を旗じるしとして掲げ、新たなる発展を目指して3年目となった当センターも、これらの動向を見据え、今日的な教育課題や教職員のニーズに対応し、実践的指導力の一層の向上を目指して講座を設定してきました。具体的には異校種間連携を促進するために、合同講座を一層充実させておりますし、国や県の教育課題に応える希望講座等を設定しております。また、それぞれの講座の内容も教育改革や変化の流れを適切にとらえて、充実させるよう努めております。

そこで、年次別研修、職務別研修への取り組みの一部を、反省を兼ねて紹介したいと思います。

養護教諭教職経験者（5年経過）研修講座

この講座は、I期からIV期まで、2回の所属校研修4日間を含めて9日間の日程で行われる研修です。

I期は、異校種（小・中・高・特殊教育学校）合同で「養護教諭の役割と学校保健計画の進め方」や「保健室経営の在り方」等についての研修を、II期には、地区別校種別になり、「いじめや登校拒否（不登校）の実態と対策・対応」等についての研修を行いました。いじめ等の防止や解決を目指すものであり、いじめや保健室登校の子供の指導等に果たす養護教諭の役割は、極めて大きいと思われ、他の教職員との連携を一層緊密にすること等を目指すものでもあります。

III期は、最新の医療、救急時の病院との連携の在り方等について学ぶとともに、学校における健康教育・管理について、幅広い視点から見直すきっかけとしてもらうことを目指して、北・中央・南の三地

区で異校種合同での病院体験研修を実施しました。

病院体験研修をIII期の研修として実施したのは平成8年度からですが、先生方からは、「医療現場と学校との連携について率直な意見を聞くことができ参考になったし、手当ての方法の変化など、医療の進歩や医療現場の大きな変化を実感させられる研修であり、貴重な体験であった。また、救急車で搬送されてきた人の処置を見学したが、実際にどのように対応しているのか自分の目で確認できてよかったし、学校での救急処置だけでは経験できない疾患や対処療法なども実際に見たり聞いたりすることができ、今後大いに役立つと思った。さらに、忙しいにもかかわらず、温かく笑顔で接してくれたり、ケアには自信があるというスタッフの言葉に感心するとともに、保健室ではゆとりのある心でいたいと思っただけでなく、子供たちへの対応やケアについても考えさせられた。今後も是非継続してもらいたいと思う。」というような感想がありました。

なお、IV期には、「日々のふれあいによる児童生徒理解と対応」、「表計算、図形ソフトの活用」等についての研修を行いました。情報機器の活用による養護教諭の職務の一層の充実等を目指すものです。

中学校新任学年主任研修講座

高等学校新任学年主任研修講座

これらの講座は、それぞれ2日間の日程で実施しており、「よさをはぐくむ生徒指導の展開」、「中高連携と学年経営」等についての研修を行いました。これらの講座を同じ時期に設定したのは、その内容によっては中・高合同で研修することによって、いわゆる異校種間の交流・連携を図り、学習指導や生徒指導等をより効果的に行おうというものです。

「中高連携と学年経営」は言うまでもなく、異校種間の交流・連携を目指すものです。中・高における学年部の特色と状況や、中高連携の現状、学習指導や生徒指導等について具体的事例を出して話し合い、さらに、中高連携を進めるための課題と今後の方策について協議しました。それぞれの立場を踏まえた上での、建設的な発言の多い協議でした。

いずれにしても、2003年を目処に完全学校週5日制の実施を目指しての教育課程の大幅な改訂等、さまざまな問題に取り組まなければなりません。そのようなことも踏まえて、講話や講義・協議の内容等、さらに教員のニーズに応えるもの、充実したものとなるよう一層の工夫を心掛けなければと思っています。

「情報通信ネットワーク拠点」の整備



情報教育研修部長 木村 養市

中央教育審議会の第一次答申では「近い将来、全ての学校がインターネットに接続すること」を目指すとされています。これを先取りするように、文部省の「情報通信ネットワーク拠点の整備」事業が秋田県など10府県で、本年度より開始されることになりました。当総合教育センターにおける運用は、来年度4月からになります。

この事業の目的は「総合教育センターを、情報通信ネットワークの拠点として整備し、学校が総合教育センターを通じてインターネットに接続できる環境を整えることと、総合教育センターから教育用ソフトウェアをはじめとする様々な教育情報を入手できるようにソフトウェアライブラリーセンターを設置する」ことにあります。

9月に行った市町村教育委員会情報通信環境整備に関する状況調査によると、インターネットに接続している学校は、小学校330校中50校で15.2%、中学校137校中48校で35.0%になり、5月の調査時と比べると小学校、中学校とも増加しております。これは、全国平均をも大幅に上回っております。独自にホームページを開設し、学習活動の交流、情報交換、外部への学習活動の公開等に役立っている学校の割合も、全国のトップクラスになっております。このように、本県の情報教育に対する取り組みは、意欲的に進められております。当センターとしてもこれまで以上に高度情報通信社会に対応した学校教育を押し進める素地づくりのため「拠点」整備、「研修講座」の内容について、以下のように進めてまいります。

1. 接続しやすいセンターの「拠点」サービス

学校のインターネット接続に対しては、通常の電話回線に換算して23回線分を準備して、必要に応じた接続に対応します。

2. 総合教育センターからの情報発信 総合教育センターのホームページの機能

1) 「教育ネットAkita」

現在パソコン通信「教育ネットAkita」で提供している教育情報をインターネットからも利用できるようにします。総合教育センターが所蔵する教育資料を今まで通り入手することができます。

2) 学習用検索エンジン・データベース

学習利用に特化した情報検索手段を構築し、効率的な情報収集を支援します。

調べたい事柄に関するキーワードを入力することで、そのキーワードに関連したホームページの一覧を表示し、必要なホームページへアクセスすることができます。

3) リンク集

官公庁や県内学校など、頻繁にアクセスするホームページの一覧をジャンル別に表示し、ここから必要とするホームページへジャンプすることができます。

4) フォーラム

県内教職員の情報交換の場です。課題ごとに分けてフォーラムをつくることもできます。

5) ソフトウェア検索

ソフトウェアライブラリーセンター（仮称）から教育用ソフトウェアの2次情報（タイトル、著作権者、分類、ねらい等）を検索することができます。

3. ソフトウェアライブラリーセンター（仮称）

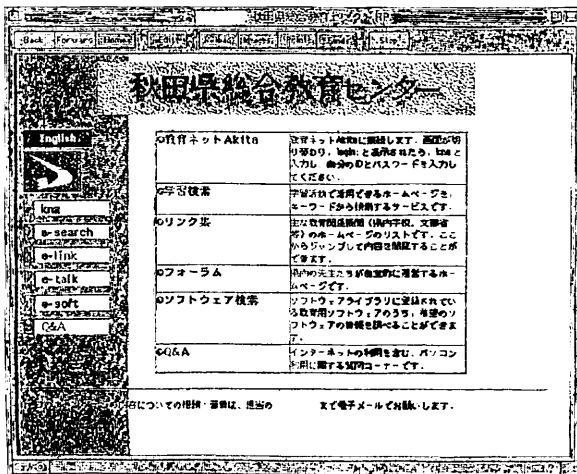
当総合教育センター1階総合教育資料室内に設置します。

学習指導用ソフトウェア、学校運営用ソフトウェアなど、約2,000本を幅広く収集展示し、4社の計7台のパソコンで検索・試用することができます。

4. 充実した研修講座

情報通信ネットワーク拠点整備にあわせ、インターネットの活用を含む情報教育の一層の推進を図るため、平成10年度の情報教育研修部の実施する研修講座に「インターネット活用」を新たに加えます。

特に、地域におけるインターネット利用を推進する牽引役となる教職員を養成するため専門研修講座（B講座）として「学習に活用するインターネット」を新設する予定です。その他、校内のネットワーク管理者の養成を目的とした内容を、既存の専門研修（C講座）「Windowsとネットワーク」に盛り込みます。



公開講演の「はなし」

当総合教育センターでは、「秋田県教職員研修体系」に示されている「初任者研修を起点とし、ライフステージに応じた研修」を踏まえながら、今日的な課題への対応や教職員のニーズに対応した研修講座を設定していますが、そのほか、その講座の受講者以外の教育関係者の方々にも、優れた英知に直接触れていただくために、公開講演を開催しております。

今年度は、6月から11月までに8回の公開講演を開催しましたが、いずれも専門分野において造詣の深い有識者の講演とあって、受講者の関心も高く、大変好評でありました。

その中から3つの公開講演について、その講演内容を紹介します。

【豊かな心と確かな学力】

講師 文教大学教授 石田恒好氏

- ・個性重視の教育の在り方や教育評価法に関する研究で知られている先生は、現在、わが国における当面の教育課題を整理しながら、今後の教育の在り方について、どのようにとらえて、どう対応したらよいかを示唆した。
- ・現在の教育で大切なことは、今の子供たちがこれから支えていくであろう21世紀の社会の在り様を予見しながら、新しい社会を生き抜いていく力、「自己教育力」を身につけさせることである。そのためには、自己を生涯にわたって教育し続ける意志の形成はもちろんのこと、幅広い豊かな心を育て、知識や技能だけではなく、思考力・判断力・表現力などを含めた確かな学力を、今、はぐくんでやる必要がある。

—小・中学校新任教務主任研修講座—

【ネットワーク時代における情報教育】

講師 東京工業大学教授 赤堀侃司氏

- ・わが国の学校教育における情報教育の第一人者である先生は、これからの社会においては、情報の収集、整理、判断、創造等を主体的に行う情報活用能力を十分に生かすことが求められてくる。そ

の社会に適応する人間を育成するには、まず、学校教育の場において、情報教育の意義と課題を教師自身が理解しておくことが必要である。

- ・主体的な学習を促すには、教える時間を減少させて自ら学ぶ姿勢を身につけさせなければならないがそのためには、豊富な学習環境の整備が必要である。情報教育においても然りであり、学習環境の一つである

指導法の確立についても、例えば、教育方法としてのメディアの活用や教員のリテラシーの向上など、その必要性和意義を理解することが大切なことである。

—学校を変える情報教育研修講座—

【生と死を考える】

講師 本澄寺住職・医師 柴田寛彦氏

- ・宗教家であり、医師でもある先生が、これまでに遭遇した様々なできごとや経験を通して、人間の生と死を、命の尊さを多様な角度から思考した講演内容であった。
- ・生理学的に見ると、人間の寿命は120歳位と考えられるが、実際の平均寿命はもっと短く、とくにインドの平均寿命は45歳前後と著しく短い。その要因は色々あるが、病や医学衛生を切り離して考えることはできなく、また、現在生きている私どもは、他の動物の犠牲の上に命を受けていることも理解しなければならない。
- ・人間は、知らず知らずのうちに「若さ」「健康」「生」の3つに、おごりがでてくることを忘れてはいけない。常に己を省み、亡き人を弔う心を謙虚に持ちたいものである。

—高等学校教職経験者（5年経過）研修講座—



秋田県総合教育センター主催

平成9年度 第12回 秋田県教育研究発表会

期日 平成10年2月12日(木)～13日(金)

会場 秋田県総合教育センター

記念講演

演題 「小説取材の裏話」

作家 西木正明氏



日程

12日 (木)	受	10:00	10:50	11:00	11:50	12:15	13:15	16:00
	付	教育研究奨励賞授賞式		総合教育センター 各研修部 研究発表	交流の広場	昼食	分野別研究発表 (分科会)	
		教育研究発表会開会式						
		各研修部研究概要説明						
13日 (金)	受	9:30		12:15		13:15	15:00	
	付	分野別研究発表 (分科会)		昼食	記念講演			

冬のプラネタリウム教室のご案内

夏休み中の8月20日(木)、21日(木)の2日間、午後7時から9時まで、小・中学生と保護者を対象に『夏の星観察教室』を実施し、280名の参加をいただき盛会でした。ありがとうございました。

さて、冬休み中の平成10年1月6日(火)、7日(水)には『冬のプラネタリウム教室』を実施します。

秋田の冬は、星空の見える日が少ないのですが、オリオン座が輝き星空の魅力が一段と増す季節です。プラネタリウムで、冬の星空をたっぷりご観賞ください。放映の時間は右のとおりです。1回目と2回目を続けて楽しむこともできます。たくさんのご参加をお待ちいたしております。申込みは不要です。直接総合教育センターにおいでください。

開催日	1月6日(火)と7日(水)	
開催時間	1回目	午前 10:00～11:00
	2回目	午前 11:15～12:15